

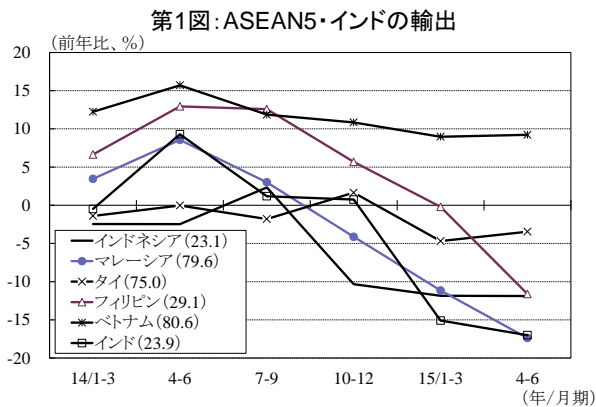
# 経済マンスリー [アジア]

## 外需の低迷が続くなかでも堅調が続くベトナムの輸出

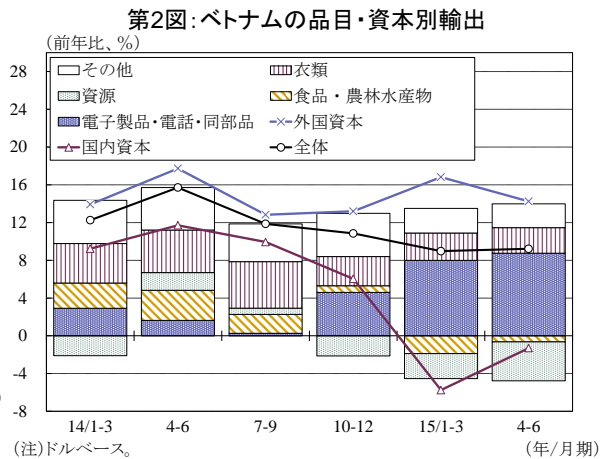
アジアでは、中国やNIEsで成長ペースの減速がみられるが、ASEAN・インドは内需を中心に相対的に底堅さを維持している。これまで発表された4-6月期の実質GDP成長率をみると、シンガポール（前年比+1.7%）と韓国（同+2.2%）が減速したほか、中国は同+7.0%と急減速を回避しつつも月次経済指標は総じて弱めの推移が続いているが、ベトナム（同+6.4%）は高めの伸びを示した。

ASEAN・インドでは、堅調な内需とは対照的に、外需は伸び悩んでいる。但し、4-6月期の輸出を国別にみると軒並み前年割れとなるなか、ベトナムの堅調は際立っている（第1図）。輸出依存度が高いマレーシアやタイでは輸出の不振が成長ペースの抑制となっているとみられる一方、同じく輸出依存度が高いベトナムでは輸出の堅調が成長率を押し上げる方向に働いている。ベトナムの輸出を資本セクター別にみると、輸出全体の約7割を占める海外資本セクターの拡大が全体を牽引していることが確認出来る（第2図）。品目別でも電子製品や携帯電話が全体を押し上げている。同国では相対的に安価な労働コストなどを背景に、近年大手通信機器メーカーの製造拠点シフトの動きを取り込み、加工貿易発展に注力してきたことが、外需が伸び悩むなかでも輸出拡大を支えていると考えられる。他方、インドネシアでも、自動車など海外からの投資は拡大しているが、依然資源部門への依存度が高く、近年の資源安が輸出を直撃したといえる。

今後ベトナムにとって、持続的な成長に向けて、裾野産業の拡大や輸出品目の多角化、高付加価値化が課題となろう。同国では現地調達率の低さが課題として指摘されており、実際、輸出の増加に伴い輸入も電話部品等を中心に高い伸びが続いている。この点で政府は6月、現状49%が上限である上場企業への外資出資制限を9月から原則撤廃することを発表しており、今後の外資動向が注目される。



(注)ドルベース。マレーシア・タイ・フィリピンの2015年4-6月期は5月まで。  
( )内の数値は、2014年の実績でみた名目GDPに対する輸出の割合。  
(資料)各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(注)ドルベース。  
(資料)ベトナム統計総局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
福地 亜希 aki\_fukuchi@mufg.jp  
土屋 祐真 yuuma\_tsuchiya@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。